

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホームはなみずき西の家)

事業所番号	0670101476		
法人名	株式会社ケアセンターはなみずき		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	山形市深町一丁目9-14		
自己評価作成日	平成 2年 10 月 26 日	開設年月日	平成 15 年 11 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が心穏やかに暮らせるような雰囲気作りに努めており、和やかな雰囲気を持っている。
買い物やドライブ・散歩など活動の機会を設けている。
中庭に木々や花があり、短い距離の散歩でも季節を感じることが出来る。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 2年 10月 22日	評価結果決定日	令和 2年 11月 4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表は「人材が会社の財産」との経営理念に基づき、職員の能力や成長を確かめながら、人事考課表による客観的評価、様々な仕事を経験させる職員配置を実施することで、「やりがいと向上心」を持てる職場づくりを進めている。これに加え、職員間の良好な人間関係が「働きやすい環境」を醸成し、職員は業務の相互支援や自己評価による振り返りを行いながら「笑顔の生まれる優しいケアの実践」という理念の実現に取り組んでいる。コロナ禍で仕事量が増加しているにもかかわらず、職員は工夫しながら、ユニットごとの夏祭り、おやつづくり、エアロバイクやけん玉、密集を避けたドライブや芋煮会などを暮らしの中に取り入れ、利用者が出来るだけストレスを溜めずに、楽しい生活を送れるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目に見える所に掲げている。毎日のミーティングにて理念を読み上げ、常に意識することを心掛けている。	事業所理念とユニット理念を目に付く場所に掲示し、ミーティングで読み上げ、共有し意識を高めている。職員は自己評価による振り返りを行いながら「笑顔の生まれる優しいケアの実践」という理念の実現に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のお店へ買い物に行ったりしている。また、百歳体操を開催し、地域住民の方々と行っている。しかし、コロナウイルスの流行により現在は控えている。	新型コロナ感染防止のため、地域行事への参加や事業所行事の開催は制限しているが、町内会の百歳体操や清掃活動への参加、歌や踊りのボランティア受入などを通して可能な範囲で地域との交流を継続している。利用者が楽しみにしていた事業所の夏祭りはユニットごとに単独で開催した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェや百歳体操を定期的に開催し、地域の方々に参加してもらっているが、現在はコロナウイルス流行の影響により開催を見合わせている。施設のAEDを地域の方も使用できるように契約を結んでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において施設の取組みについて報告を行い、意見などをもらい、その内容を検討している。現在、コロナウイルス流行の為、開催自体は見合わせているが、ファックスにて内容を報告し、助言や意見をもらえるようにしている。	運営推進会議は民生委員(地域代表)、包括職員、家族代表が出席し、2ヶ月に1回開催されている。新型コロナ感染防止のため、現在は書面会議とし、運営状況やヒヤリハットなどが報告され、委員から意見やアドバイスを頂き、運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当や民生委員と運営推進会議などで状況や取組みを伝え、内容について相談している。	運営推進会議を通して包括職員に運営状況を報告している。今年度は役場からコロナ対応に関する連絡・照会が頻繁にあり、その都度助言を頂いたり、協力関係を築いている。中断していた介護相談員の来訪が再開したが、当面は職員との面談だけが行われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>拘束について職員が理解するように指針を設けている。また、資料などを閲覧しており、拘束は行われていない。玄関の施錠についてアラームセンサーの活用など施錠しない努力を行っている。</p>	<p>職員にマニュアルを配布し、内部研修・話し合いなどを通して職員に周知している。外出したがる利用者には、否定せず、見守り・寄り添いによって気持ちを落ち着かせるとともに安全確保にも努めている。アラームセンサーを設置することで、玄関に鍵をかけない取組も行われている。また、運営推進会議の中で身体拘束適正化委員会が開催されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待について権利擁護の研修を行い、内部及び外部研修を行い、認識をもつようになっている。また、利用者について身体の傷や痣、変わった様子はないか情報を職員間で共有している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>内部または外部研修を実施し、職員が学ぶ機会を設けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>書面に基づいて利用者、家族に丁寧に説明している。内容を理解・了承頂いたうえで契約・解約を行っている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会や電話の際に意見・要望があれば、可能な限り聞き入れて実践するようにしている。また、定期的に運営推進会議を行い、内容を運営に反映させている。</p>	<p>普段から利用者の声に耳を傾け、面会時に家族の意見や要望を聞き取りしている。また、おたよりで利用者の生活やコロナ対策への取組などについて報告している。介護相談員の来訪も再開されたが、当面は職員との面談だけが行われる。</p>	
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表者が職員と話し合える機会を設けており、その内容について反映できるように代表者・管理者で相談している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は「人材が会社の財産」と考えており、全ての職員に公正な評価をしている。また、人の成長を考えた人員配置を行うなど、職員がやりがいを持って仕事に取り組めるよう配慮している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者を通じて、又は職員と接して、一人一人の力量を把握している。外部研修があれば、職員に参加を促している。また、内部研修も行っている	県主催の外部研修はオンラインで行われている。マニュアル一式が職員に配布されており、コロナ対策や防災など時宜に合ったテーマを選んで内部研修が行われている。職員は人事考課表に目標を掲げ、自己評価で振り返りを行いながらスキルアップに取り組んでいる。また、代表や管理者が職員面談で出された意見や要望を運営に反映させることで「働きやすい職場づくり」が進められている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者が県グループホーム協議会、日本認知症グループホーム協会山形県支部に加盟しており、管理者や職員を地区ブロック会やグループホーム大会に参加させている。その中で同業者とのネットワーク作り、他事業所の長所を取り入れたりしている。	県グループホーム連絡協議会や日本認知症グループホーム協会に加盟しており、研修会、交換研修、情報交換を通して、ネットワークづくりやサービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望をヒアリングにより明確にし、安心した生活を送れるようにサービスの指針を示すよう心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの内容について十分な説明を行っている。また、家族から疑問や不安があった時は、傾聴したうえで解決に向けて取り組み、信頼関係の確保に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームや当施設の特徴を説明し、理解していただき、必要な場合は他のサービスの選択肢も提示している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や食器洗いなどの家事をスタッフ・利用者ともに行うなど、日々の暮らしの中で出来ることは助け合いながら生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などの際に本人の様子を報告し、情報を共有している。また、月1回書面にて、その月の様子を報告している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や面会などでの馴染みの人との交流、馴染みの場所へドライブに行くなど、可能な限り本人の要望に添えるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席配置を工夫する・共通のレクを行う・職員が交流の橋渡しをするなど利用者同士の関係が良好になるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて、電話連絡や面会を行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の話を傾聴し、希望・意向に沿えるように努めている。毎日気付いた事や情報を記録や申し送りで共有できるようにしている。	センター方式アセスメントシートを用い、利用者との日常会話や家族からの聞き取りなどから利用者の思いや意向の把握に努めている。気づきなどを記録や申し送りで共有し、ケアカンファレンスで話し合い、ケアプランに繋げている。センター方式の導入により目標達成計画に掲げた「アセスメントシートの見直し」は取り組みが行われているが、運用しづらい書式もあるため段階的に改善していく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から以前の暮らしぶりについて情報を集め、サービスへ反映させるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事やアクティビティを行う中で変化があれば、申し送りやミーティングなどで情報を共有し、現状を把握できるようにする。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限り、本人・家族・関係者と話し合い、意見を集め、介護計画を作成している。また、スタッフでもケアカンファレンスを行い、現状に即したものにしている。	毎月モニタリングを行い、評価を繰り返しながら、3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。見直しにあたっては、家族の意見や要望を聞き取り、ケアカンファレンスで話し合い、役割・好きなこと・楽しみごとを取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画作成時に家族の意見や要望の聞き取りを行っているが、十分とは言えない状況である。家族からの聞き取りをしっかりと行い、その結果を計画に反映させるとともに「介護計画であること」を伝えた上で家族に説明されることを期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティングなどで情報を出し合い共有し、その内容を計画作成に生かすようにしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の店舗に買い物に出かけたり、馴染みの理髪店に行ったりしている。また、地域のサロンや祭りに参加し、楽しんでもらえるように支援している。現在はコロナウイルス流行の為、控えている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	事業所とかかりつけ医で、本人や家族の希望を尊重し、通院の支援を行っている。受診の結果は電話や文書などで報告している。	利用者・家族が希望するかかりつけ医となっている。通院支援は原則家族が行い、日頃の利用者の様子等を書面で医師に情報提供している。受診結果は電話やおたよりで家族に報告し、共有している。協力医による往診も行われ、適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員と連携を取り、体調の変化があった場合には相談が取れるような体制を確保している。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した際には、本人・家族・病院・かかりつけ医・関係者と情報交換し、出来るだけ早期に退院できるよう支援している。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人、家族と話し合い、方針を決定するようにしている。医療機関との連携を取るようにしている。</p>	<p>早い段階からできる事、できない事や看取りについて家族に説明している。重度化した場合は、その都度終末期対応の確認を行い、関係者で話し合い、方針を共有しながら、その人らしい最期を迎えられるよう支援している。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当や初期対応を学ぶ訓練・研修を定期的に行い、実践力を身につける場を設けている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時の対応マニュアルを作成している。また、定期的に防災訓練を行っている。災害時に地域の方と協力する体制を整えている。</p>	<p>年2回、事業所合同で昼・夜を想定した火災・地震・水害等の避難訓練を実施している。地域との協力体制も整備され、有事に備えて防災グッズや食料の備蓄も行われている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念などで誇りやプライバシーを損ねない関わり方を掲げ、提唱し実践している。	ユニット理念に「人格の尊重」を掲げ、接遇研修を通して職員に周知している。普段から「笑顔で優しい対応」を心掛け、職員同士で注意し合いながら、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	安心できる声かけや雰囲気作りにより、本人が思いを表現しやすいような環境を整えている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを大切にし、職員主導のサービスにならないような支援を行っている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に伺いながら、着替え選びをしたり、整容も本人の希望を聞いて行っている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時は利用者が可能な限り一緒に片付けなどを行えるようにしている。また、職員・利用者は同じテーブルで食事を摂っているが、現在はコロナウイルス流行の為、別々に食べている。	おかずは外部に委託し、ごはんは味噌汁をキッチンで調理している。利用者は準備や後片付け等に参加し、家庭的な雰囲気ですべての食事をしている。行事食や芋煮等で食事に変化を持たせ、夏祭りのかき氷やゼリー作り等で食事が楽しみなものになるよう支援している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎回記録している。水分も摂取の声掛け・支援をしている。かかりつけ医の指示があれば、状態に応じた食事形態や食事量を提供している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声がけ、介助を行っている。また、希望及び必要があれば歯科医の往診を受け、助言を受けている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の介助が必要な利用者に対して時間に沿ったトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。	排泄チェック表でパターンを把握し、排泄サインを見逃さず、タイミングを計りながら適時声掛け・誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声掛けをしている。運動のアクティビティを取り入れ便秘の予防に努めている。また、看護師・かかりつけ医と連携を取り、個々の排便状況に応じて下剤の使用も行っている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望を聞き、可能な限り好きな時に入浴が出来るよう支援している。	利用者の希望や体調に合わせ、週2～3回の入浴を支援している。入浴を嫌がる利用者には担当職員の変更や上手な誘導で入浴を楽しめるよう支援している。身体能力が低下した利用者は併設事業所の機械浴を利用することも可能である。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の様子を見て、安心できるような声がけで、休息や就寝を支援している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイリングし、薬の目的や副作用をいつでも職員が認識・確認できるようにしている。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の際のテーブル拭き、食器拭き、洗濯物干し、掃除など各自が役割を持てるように支援している。また、塗り絵や体操、けん玉、エアロバイクなど好きなことが出来るような環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのスーパーへの買い物や散歩、ドライブ、地域の催しなど本人の希望に沿ったうえで外出を支援しているが、現在はコロナウイルス流行の為、ドライブや散歩がメインである。家族と外出したりする場合には事前に感染対策した上で連絡・調整し、外出がスムーズに行えるよう支援している。	コロナ禍で外出はかなり制限されているが、散歩や密集を避けたドライブや芋煮会等で出来るだけ外出の機会を確保している。中庭には季節の草花が植えられ、ウッドデッキで四季を感じながら外気浴を楽しんでいる。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者は家族の意向により、家族が管理している。お金を所持している利用者についてはその人の力や希望に応じて、お金を使えるよう支援している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の支援は、本人から希望があれば、可能な限り速やかに行っている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにいれば、台所からの食事作りの匂いがし、窓からは中庭の風景を楽しむことが出来る生活感のある空間となっている。加湿器やエアコン・すだれなどを季節に応じて活用し、温度・湿度管理している。また、中庭に咲いた草花で季節を感じ取ることができる。	共有空間は適切な温度・湿度管理が行われ、掃除が行き届き、清潔に管理されている。コロナ対策として換気扇は24H稼働している。季節を感じさせる草花や利用者の創作品が飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。利用者は思い思いの場所で談笑したり、エアロバイクやけん玉に興じながら穏やかに過ごしている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは仲の良い利用者同士で談笑したり、テレビや新聞を読んだり、けん玉をしたり、各自が思い思いに過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、馴染みの家具や家族の写真、施設での外出の写真など好きな物を置いて居心地良く過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具、家族の写真などを持ち込み、好みの配置・飾り付けを行うことで自宅に居ると同じ雰囲気の中で居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が安全かつ快適に生活できるように随時改善・工夫している。			